

リサイクルの価値を探る3日間 産・官・学・金がフィールドワーク



1月12日(土)～14日(月)にかけて、国連の『持続可能な開発目標(SDGs)』実現に向けた取り組みを考えるフィールドワークがおこなわれ、慶応義塾大学SFCCの学生やJICA、鹿児島相互信用金庫、役場の職員等、26名が参加しました。

リサイクル関連施設の視察や住民への聞き取り調査等をおこない、お弁当の容器分別体験など、リサイクルの価値を考え、事業提案構想をまとめました。

最終日には、構想の発表会がおこなわれ、『DIY体験教室』の設置や『リサイクルアートフェス』の開催、分別をしながらマラソンする『リサイクルダッシュ』など、ユニークかつ多彩な提案がありました。

最後には、参加者全員による『マイSDGs宣言』と東町長から町のSDGs推進宣言の発表がおこなわれました。

企業のノウハウを大崎町に！ 地域おこしの加速化を目指します



1月17日(木)、役場応接室において、地方創生の取り組みを加速化させるために、東京に本社を置く『一般社団法人リバースプロジェクト』と地域おこし企業人交流プロジェクト派遣協定を締結しました。

今後、町と一般社団法人リバースプロジェクトは本町の強みを生かした取り組みを進めていきます。協定式に出席した齊藤智彦^{さいとうともひこ}理事は、「様々な可能性を見出し、チャレンジできる町にしたい」と強い決意を述べました。

税金の大切さを知ろう！ 租税教室を実施しました



1月22日(火)、小学校の児童たちが税金について学ぶ租税教室が大丸小学校5・6年生27名を対象におこなわれました。

これは、町税務課職員が、『税金は安心して豊かな生活を送るために必要である』ということを児童に認識してもらうため、毎年おこなわれています。授業では、DVDの視聴や簡単なクイズ等をおこない、児童らは、税金について理解を深めました。

授業を受けた上野智徳^{うえの ともりのり}くん(小6)は、「税金はないと困ることがたくさんあって、とても必要だと思いました。」と感想を述べました。